

令和３年度奥州市病院事業会計決算書

【財務三表解説書】

奥州市病院事業会計決算の内容は、これまで市の広報誌や医療局ホームページでお知らせしていますが、病院事業会計は民間の企業と同じように『複式簿記』を使って会計処理を行っているため、決算の内容は『損益計算書』や『貸借対照表』などの財務諸表を用いて表されます。これは、市の一般会計や特別会計のようにお金の出入り（歳入、歳出）のみを示したもの（『単式簿記』）と異なり、複式簿記を見慣れない方にとっては少し難しい内容となっています。

そこで、少しでもその内容をご理解いただくために令和３年度決算の平易な解説書を作成しました。今回は、『損益計算書』『貸借対照表』『キャッシュ・フロー計算書』の財務三表にしぼって解説していますので、病院事業会計決算書とともにご覧いただければ幸いです（※）。

※ 本書は、わかりやすく説明するため一部決算書の表現と異なる箇所があります。

令和3年度 奥州市病院事業損益計算書（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）

損益計算書とは...損益計算書は、建設改良と投資を除く(※)、1年間のすべての収入と支出を明記した“経営成績表”です。この計算書により黒字なのか赤字なのかわかります。収入、支出とも大まかな項目に分かれて表示しており、収支の偏りがわかるため、経営分析を行い、次年度以降の方針を立てることができます。

※ 建設改良と投資は、その効果が複数年度に渡るため、単年度の営業成績を表す損益計算書には表示されません。
現金の動きとしては「キャッシュ・フロー計算書」に、資産(負債)の状況としては「貸借対照表」に表示されます。

(単位：円)

病院事業の本業である医業部門の収入と支出の額を表しています。
医業収益には診療行為によって得た収入のほか、健康診断やワクチン接種で得た収入、市の一般会計からの医業に対する負担金(繰出金)もここに計上されます。
本部費配賦額は、診療行為を行わない管理部門の収支差額を埋めるために各病院・診療所が負担する経費で、収益と費用の額は同額となります。

1	医業収益		
(1)	入院収益	992,624,899	
(2)	外来収益	1,080,815,051	
(3)	その他医業収益	464,274,497	
(4)	本部費配賦額	3,313,682	
	計	2,541,028,129	①
2	医業費用		
(1)	給与費	2,451,201,656	
(2)	材料費	399,174,616	
(3)	経費	1,014,358,959	
(4)	減価償却費	228,454,167	
(5)	資産減耗費	5,849,302	
(6)	研究研修費	6,623,548	
(7)	本部費配賦額	3,313,682	
	計	4,108,975,930	②
	医業損失	1,567,947,801	③

医業収益の合計額①から医業費用の合計額②を引いたものが医業損益③です。本業で黒字なのか赤字なのかわかります。
令和3年度は医業費用が医業収益を上回ったため、約15億7,000万円の赤字(医業損失)となりました。
病院事業は医業が本業ですので、ここで黒字(医業利益)が出せるよう企業努力をしていく必要があります。

3	医業外収益		
(1)	受取利息及び配当金	111,693	
(2)	補助金	1,161,242,170	
(3)	一般会計負担金(繰出金)	1,202,613,000	
(4)	患者外給食収益	318,390	
(5)	長期前受金戻入	20,833,646	
(6)	その他医業外収益	22,071,297	
	計	2,407,190,196	
4	医業外費用		
(1)	企業債利息	22,861,116	
(2)	患者外給食材料費	1,890	
(3)	雑損失	124,451,647	
	計	147,314,653	
		2,259,875,543	

本業以外の部門にかかる収入と支出の額を表しています。
この部門の主な収入は、国県補助金や市の一般会計からの負担金(繰出金)です。
主な支出は企業債の利息です。雑損失は、消費税及び地方消費税の計算の過程によって生じるもので、実際の現金の支出は伴いませんが、損益計算上損失として計上されます(病院事業特有の会計処理)。

奥州市病院事業会計では、訪問看護事業の収支を明らかにするため、本業である医業部門から独立して表しています。
訪問看護事業収益④から訪問看護事業費用⑤を引いたものが訪問看護事業損益⑥です。医業損益と同様に、支出が収入を上回っているため約1,000万円の赤字となりました。

5	訪問看護事業収益		
(1)	外来収益	65,560,830	
(2)	その他医業外収益	0	
	計	65,560,830	④
6	訪問看護事業費用		
(1)	給与費	72,583,292	
(2)	材料費	0	
(3)	経費	4,414,375	
(4)	減価償却費	0	
(5)	研究研修費	43,820	
	計	77,041,487	⑤
		△ 11,480,657	⑥
7	訪問看護事業外収益		
(1)	補助金	0	
(2)	その他医業外収益	13,131	
	計	13,131	
8	訪問看護事業外費用	0	
		13,131	

医業、医業外、訪問看護事業、訪問看護事業外の各収益から各費用を引いたものが⑦の経常損益です。1年間の病院事業運営の結果、黒字であれば経常利益、赤字であれば経常損失となります。
公営企業として運営している以上、黒字(経常利益)であることが必要です。
令和3年度は収入が支出を大きく上回り、約6億8,000万円の黒字となりました。黒字の要因としては新型コロナウイルス感染症対策に要する経費に対して多額の国県補助金が交付されたことが挙げられます。

	経常利益	680,460,216	⑦
--	------	-------------	---

損益計算書では1年間のすべての収入と支出を表しますが、決算対象年度以前の取引によって生じた収入と支出などは特別利益若しくは特別損失として別に表すことになっています。
ここに計上されるものは、診療報酬の査定によって生じた損益や固定資産の売却損益、災害によって生じた損失などです。

9	特別利益		
(1)	固定資産売却益	0	
(2)	過年度損益修正益	190,961	
(3)	その他特別利益	0	
	計	190,961	
10	特別損失		
(1)	固定資産売却損	0	
(2)	過年度損益修正損	11,711,563	
(3)	その他特別損失	769,200	
	計	12,480,763	
		△ 12,289,802	⑧

経常利益に特別損益を加えたものが当年度の純損益で、1年間の病院事業運営の最終成績となります。
令和3年度は全収入が全支出を上回ったため、約6億7,000万円の純利益⑨となりました。
これに前年度からの繰越欠損金⑩を加え、令和3年度末で欠損金額(いわゆる累積赤字)⑪は約21億3,000万円に減少しました。

	当年度純利益	668,170,414	⑨
	前年度繰越欠損金	2,798,781,155	⑩
	当年度未処理欠損金	2,130,610,741	⑪

令和3年度 奥州市病院事業会計貸借対照表（令和4年3月31日）

貸借対照表とは...

貸借対照表は、決算年度末時点において企業が所有しているすべての資産、負債及び資本の残高(価値)を表す報告書です。どういう資産(負債)をどのような形で持っているかがわかるため、企業の"健康診断書"のような役割を果たします。

資産合計と負債資本の合計額が必ず一致し、左右のバランスが均衡しているため『バランスシート』ともいいます。

資産のうち1年以内に現金化できるものを流動資産に、できないものを固定資産に計上します。
固定資産のうち投資は、医師養成奨学資金としてこれまで貸付を行った総額です。

貸借対照表から読み取れる 奥州市病院事業会計の主な指標

・流動比率

流動資産／流動負債×100

=508.9% 余力あり😊

支払い能力があるかどうかを判断する指標。200%以上が望ましいとされています。

・現金預金比率

現金預金／流動負債×100

=377.1% 余力あり😊

流動負債に対する現金預金の割合。20%以上が望ましいとされています。

・有形固定資産減価償却率

有形固定資産減価償却累計額／
有形固定資産のうち償却対象資産×

100=75.5% 老朽化進行中😓

有形固定資産の減価償却の進行具合を表す。比率が高いほど老朽化度合いが高いといえます。

(単位：円)				
固定資産		3, 553, 912, 363	固定負債	680, 502, 570
有形固定資産	土地	825, 805, 793	企業債	680, 502, 570
	建物	2, 323, 347, 196	流動負債	567, 479, 099
	構築物	103, 957, 033	企業債	154, 584, 255
	器械備品	244, 505, 036	未払金	251, 190, 844
	車両	1, 194, 831	引当金	159, 704, 000
	減価償却累計額 △	8, 240, 369, 307	その他流動負債	2, 000, 000
	無形固定資産	1, 102, 474	繰延収益	150, 442, 951
	電話加入権	1, 102, 474	長期前受金	150, 442, 951
	投資	54, 000, 000	負債合計	1, 398, 424, 620
長期貸付金	54, 000, 000			
流動資産		2, 888, 112, 960	資本金	6, 844, 033, 169
現金	現金	2, 140, 214, 230	剰余金	△ 1, 800, 432, 466
	未収金	721, 121, 905	資本剰余金	202, 500, 445
	貯蔵品	24, 776, 825	利益剰余金	△ 2, 002, 932, 911
	その他流動資産	2, 000, 000	資本合計	5, 043, 600, 703
資産合計		6, 442, 025, 323	負債資本合計	6, 442, 025, 323

固定負債と流動負債は他者へ返済(支払い)を行わなければならないもので、支払い期限が一年以内であるものは流動負債に、支払い期限が1年を超えるものは固定負債に計上されます。

繰延収益は、医療機器の購入や施設整備の際に交付を受けた国県補助金などです。

資本には、資本金やこれまでの営業活動で獲得した利益、積立金などが計上されます。
奥州市病院事業会計には繰越欠損金があるため、利益剰余金の額はマイナスで表示されています。

資産合計
持っている資産の状態を表しています。

負債資本合計
資産を獲得するために、どうやって獲得したのかを表しています。

令和3年度奥州市病院事業会計キャッシュ・フロー計算書
(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

(単位：円)

キャッシュ・フロー計算書とは...

キャッシュ・フロー計算書は、1年間の現金の増減を表す報告書です。

貸借対照表では年度末時点での現金の残高はわかりますが、この計算書によってどのような活動(理由)で増減したかを知ることができます。

受取利息は預貯金利息で、支払利息は借金(企業債)返済の利息のこと。

令和3年度は、投資活動で現金が減少したものの、業務活動と財務活動で現金が増加したため、トータルで約6億5,300万円現金が増加し、年度末時点の現金残高は21億4,021万4,230円となりました。

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
当年度純損益	668,170,414
減価償却費	228,454,167
長期前受金戻入額	△ 20,833,646
受取利息	△ 111,693
支払利息	22,861,116
固定資産除却損	5,264,897
未収金の増減額(△は増加)	△ 182,458,056
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 2,552,536
未払金の増減額(△は減少)	35,980,841
引当金の増減額(△は減少)	△ 10,993,000
小計	743,782,504
利息の受取額	111,693
利息の支払額	△ 22,861,116
計	721,033,081
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
固定資産の取得による支出	△ 45,204,050
固定資産の売却による収入	0
固定資産取得に係る国庫補助金等による収入	2,512,000
貸付による支出	△ 28,800,000
計	△ 71,492,050
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
企業債発行による収入	1,600,000
企業債償還による支出	△ 151,338,285
追加出資による収入	153,020,000
計	3,281,715
IV 資金増加額	
	652,822,746
V 資金期首残高	
	1,487,391,484
VI 資金期末残高	
	2,140,214,230

当年度純損益は損益計算書の純利益の額と同じ!

「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、病院事業の営業活動によってどのくらい資金(現金)を稼ぐことができたかを表します。

令和3年度は約7億2,100万円現金が増加しました。

通常「投資活動によるキャッシュ・フロー」と「財務活動によるキャッシュ・フロー」では現金が減少しますので、「業務活動によって現金を増加させなければ現金は減る」ということとなります。

未収金、たな卸し資産、未払金、引当金は前年度末時点のそれぞれの金額(残高)と比較して増減した額を表します。これらは貸借対照表に各年度末の残高が表されています。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、医療機器の購入や建物の増改築などの建設改良、医師養成奨学金の貸付といった投資活動にどのくらい資金(現金)を使ったかを表します。

通常この活動では現金が減少します。令和3年度は約7,100万円現金が減少しました。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、企業債の借入と返済がどれくらいであったか、一般会計からの出資金がいくらであったかを表します。

令和3年度は約300万円現金が増加しました。

用語解説

本部費配賦額

診療行為を行わない管理部門（経営管理部）の収支を均衡させるため、各病院・診療所が負担する経費。各病院診療所側は費用として経営管理部へ支出し、経営管理部は同額を収入するもの。

減価償却費

医療機器や建物などの固定資産は使用期間が長期間に渡るため、法律によって定められた使用年数（耐用年数）で割って1年毎の費用を計算し、毎年費用として計上するもの。

資産減耗費

病院が持っている固定資産が劣化などにより使用できなくなり廃棄する場合、減価償却が終わっていない部分を資産から除くための費用（固定資産除却費）と、薬品などの貯蔵品が破損などにより使用できなくなった場合、帳簿から除く際の費用（たな卸し資産減耗費）。

長期前受金戻入

医療機器や建物などの固定資産を国県補助金などを活用して整備した場合、耐用年数で割って1年毎の金額をを計算し、毎年収入として計上するもの。

減価償却費の逆バージョン（収入版）、と覚えればわかりやすい！

未収金

決算対象年度の収入として確定しているが、年度末時点でまだ入金がないもの。

貯蔵品

年度末時点で未使用である薬品や診療材料など残高。

企業債

医療機器の購入等のために行った借金。

医療機器は使用効果が複数年に渡るため、負担の平準化を図る効果もある。支払い期限が1年以内のものは流動負債に、1年を超えるものは固定負債に計上。つまりこれらを合わせた金額が借金の残高となる。

未払金

決算対象年度の経費として支出が確定しているが、年度末時点でまだ支払いが完了していないもの。

引当金

将来発生する費用や損失に備えるため予め費用として準備しておく見積額。病院事業会計では主に翌年度6月に支払うボーナスのうち、決算対象年度に起因する分（12月から3月分）を計上。